ですが二度とも、見んごと、落第しましたんで……尤無理かも知れないんですが、矢張勉強が足りないのです。今度は何でも及第したいんですが、またやり損ふかも知れません。』

嗚呼、こも亦、眞の車夫にてはあらぬなり。身の述懷を談りながら韋駄天の如く驅け過ぎて早くも、定めの場所に來りぬ。さればとて約束の金に少し許りを添へて、渡せば、數度禮を述べまた楫棒取り上げて、神田の方へと歸り行きぬ。吾は無量の感に打たれて、其後影を見送りながら、暫は、其場に衝立ちつ。（未完）

新年の御歌

雪中竹

御製

この上にびくへふりそふ雪ならむ
たかむら高くなりまさりつゝ

皇后宮御歌

よの程のあらしはたえてくれ竹の
雪しつかにもあくるそらかな

東宮御歌

ふりつもるまかきの竹のしら雪に
世のさむけさを思ひこそやれ

東宮妃御歌

かきりなき君かちとせもこもるらむ
竹のはやまにふれるはつ雪

子らの遊び

東　くめ

浪よりあくる　朝日かげ
魚やつらむと　蜑の子が、
浦の苫屋を　起き出て、
友よびかはし　急ぐなり。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊